

HYNTS TECH

地方発スタートアップが考える地方創生

ハインツテック株式会社
代表取締役社長 青木 睦子

2025年4月12日

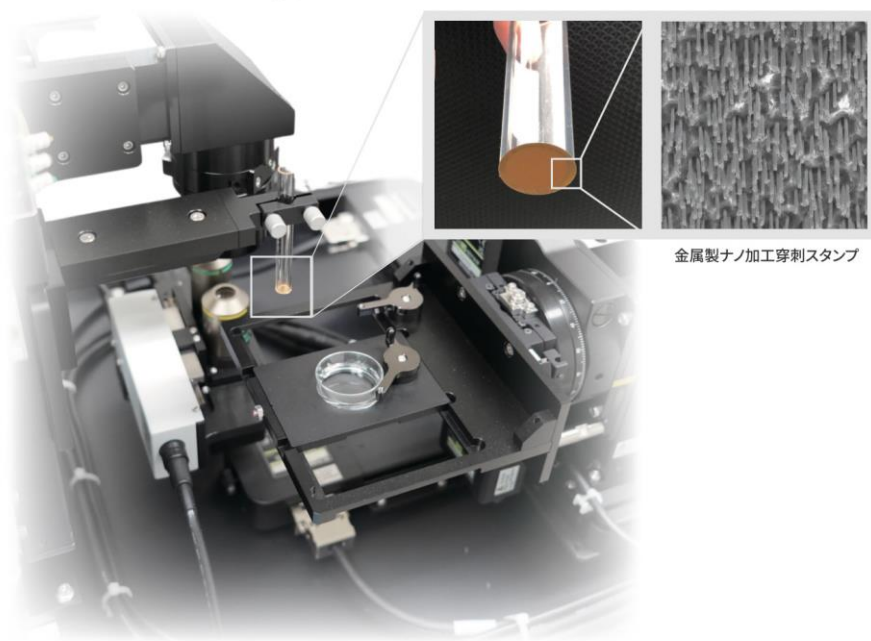
新しい地方経済・生活環境創生会議「スタートアップ・稼げる地方」

ハインツテックの紹介:

北九州で創業した早稲田大学IPS発ディープテック系スタートアップ
(半導体プロセス+バイオテック)

微細加工技術を用いた、細胞への物質導入・抽出・輸送にかかわる
技術開発・ツール製造販売・研究開発支援

ナノチューブ膜スタンプ・システム



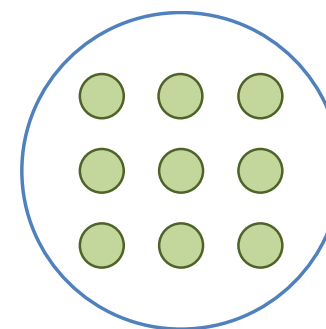
金属製ナノ加工穿孔スタンプ

ナノチューブを介した物質のやりとりをすることで、
低負荷で高効率な高分子導入を可能に



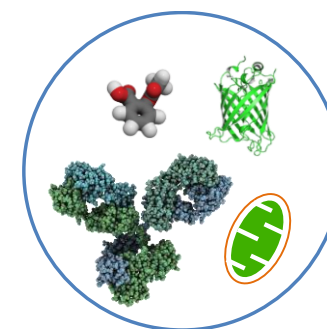
Short time

1 week vs. 30min



High efficiency

25% vs. 90%+



Possible to deliver
large molecules

~ 10nm vs. ~500nm-1μm

Image: Freepik.com

* These numbers depend on the experimental environment

Copyright 2025 Hynts Tech Corporation. All rights reserved.

スタートアップ創業を取り巻く環境:

都市部と比較して、地方はディープテック系スタートアップを創出しやすい

地方創業のメリット:

- 研究開発に必要な広いラボスペース
- 集中できる静かな環境
- 行政、人、企業、大学との連携がしやすい距離感
- 潜在的労働力

地方創業のデメリット

- 資金、情報、人材へのアクセスは限定的(とはいえ、ウェブ会議は普及)

→ 都市部とは大きく違う。“強みと弱み”を認識することが必要

(事例)北九州市のエコシステム:

地方都市の中でも特にディープテック系スタートアップを創業しやすい環境

- 学術研究都市
 - 早稲田大学・九州工業大学・北九州市立大学・福岡大学の4大学、および多数の企業が入居
 - 大学毎の垣根がなく、共同研究などを実施しやすい環境
 - 共同利用可能なクリーンルームなどの設備
- グローバルで活躍する大手製造業が多数
 - >> 連携が増えると地域に対しても良い効果
- 起業家とサポーターの距離が近い
 - Compass 小倉

学発DT系起業家の課題と支援の方向性案:

全方位からのより具体的な支援、人材の創出と地方への人材流動が必要

	課題	支援の方向性	必要となるもの
起業前	サイエンスとしては面白いが、ビジネスになるイメージが湧かない	学内外壁打ちの機会創出 目利きによる支援	機運醸成 → 個別課題に応じた専門家とのマッチング 学内目利き人材確保
	経営人材不在	経営人材とのマッチング	副業専門人材プラットフォーム → 地方に根ざし、一定程度コミットできる人材の創出、I/Uターン支援
起業後	資金調達	エクイティ調達に繋げる支援	初期の研究開発助成や支援事業において、次期フェーズのエクイティ調達を見越した座学・伴走など
	人材獲得・組織づくり	人材創出とマッチング	高等教育機関でのT型・Π型人材創出、専門人材のI/Uターン支援、働きやすい環境整備(税制面含)
	技術シーズの権利整理・知財戦略策定	(初期)学内TLO支援、(起業後)知財側・事業側からの支援	大学等でのTLO部門においても「事業化を意識した」運用体制の整備、目利き人材育成・マッチング
	生産体制整備	中規模生産を可能にする設備とのマッチング	国内中-大規模生産拠点整備、リスト化、マッチング

このような取り組みを全国に広げるために:

地方を核として、全方位で支援を行うためのモデル構築が必須

- 各自治体レベルで
 - 強みの探索
 - スタートアップ創出のためのハブ機能の設置・明確化
- 都市モデルと地方モデルの違いを認識した上で、地方起点での政策設計
- 起業をすることだけでなく、その後の成長を後押しするための連続した、かつ具体的な支援
- 地域をチームで育てる → 地域同士の連携も
- 雇用・税制・教育など、さまざまな観点を取り入れる

THANK YOU



<https://hyntstech.com>

